

国語科	論理国語	2単位
3学年	特進Gコース・理系	

### 1. 授業の目標

- (1) 近代以降の優れた文章や作品を読解し、鑑賞する能力を身につけるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。また、進んで表現し読書することによって、人生を豊かにする態度を養う。
- (2) 記録・要約・説明・論述といった言語活動を行う能力を培う。
- (3) 模擬試験で偏差値55以上の成績をおさめることができる実力を養成する。
- (4) 大学入学共通テスト国語の現代文において、60%以上の得点をおさめることができる実力を養成する。

### 2. 授業内容

- (1) 論理的な文章について、文章の構成や展開に注意して筆者の論の進め方や強調点をとらえ、要約したり、詳述したりする力を養う。
- (2) 文学的文章について、文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わう。
- (3) 大学入試共通テスト対策に重点をおき、副教材「共通テスト問題研究 [国語]」を演習教材として、解法のテクニックの向上を図るとともに、実践力をつける。
- (4) 副教材やプリント教材を用いて小テスト及び演習問題を実施し、文章を正確に理解する力を養う。

### 3. 成績評価

- (1) 前期・後期の評価は、中間考査・期末考査・小テストなどの結果、問題演習への取り組み方、授業中における発表・話し合いなどの発表内容・参加状況、振り返りをしながら学びに向かう姿勢など、統合して判断する。【主体的に学習に取り組む態度】
- (2) 年間の評価は、前期・後期の成績を統合して行い、さらに下記の観点を加えるものとする。
  - ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。【知識及び技能】
  - ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらい要旨を把握できる。【思考力・判断力・表現力等】
  - ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理をして、目的や糸に応じた適切な題材を決めることができる。【思考力・判断力・表現力等】

### 4. 使用教科書

教科書	東京書籍 『精選論理国語』
副教材	大修館書店 『トータルサポート 新国語便覧』
	河合塾 「2025 共通テスト過去問レビュー [国語]」
	第一学習社 『新版 チャレンジ常用漢字』

### 5. 小テスト実施計画

「チャレンジ常用漢字」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
範囲	2級第1,2回	2級第3,4回	2級第5,6回	2級第7,8回		2級第9,10回

## 6. 年間学習計画

月	授 業 内 容	問 題 演 習
4	オリエンテーション <言語> 「混じり合う言葉」 ドミニク・チェン	「共通テスト問題研究 [国語]」 を利用し、文章読解と解法の基 礎を身につける。
5	<時間> 「鏡の中の現代社会」 見田宗介  <b>前期中間考査</b>	
6	— 大学入試共通テスト・国語・問題演習開始 —	
7	<b>前期期末考査</b>	
8	<b>【夏季休業】</b>	
9		
10	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>【特別編成授業：テキストを使用した総合問題演習】</b></p> <p style="text-align: center;"><b>後期中間考査</b></p> <p style="text-align: center;"><b>【冬季休業】</b></p> <p style="text-align: center;"><b>卒業考査・大学入試共通テスト</b></p> </div>	
11		
12		
1		
2		
3		

国語科	論理国語	3単位
3学年	特進Gコース・文系	

### 1. 授業の目標

- (1) 近代以降の優れた文章や作品を読解し、鑑賞する能力を身につけるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。また、進んで表現し読書することによって、人生を豊かにする態度を養う。
- (2) 記録・要約・説明・論述といった言語活動を行う能力を培う。
- (3) 模擬試験で偏差値55以上の成績をおさめることができる実力を養成する。
- (4) 大学入学共通テスト国語の現代文において、60%以上の得点をおさめることができる実力を養成する。

### 2. 授業内容

- (1) 論理的な文章について、文章の構成や展開に注意して筆者の論の進め方や強調点をとらえ、要約したり、詳述したりする力を養う。
- (2) 文学的文章について、文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わう。
- (3) 大学入試共通テスト対策に重点をおき、副教材「共通テスト過去問レビュー [国語]」を演習教材として、解法のテクニックの向上を図るとともに、実戦力をつける。
- (4) 副教材やプリント教材を用いて小テスト及び演習問題を実施し、文章を正確に理解する力を養う。

### 3. 成績評価

- (1) 前期・後期の評価は、中間考査・期末考査・小テストなどの結果、問題演習への取り組み方、授業中における発表・話し合いなどの発表内容・参加状況、振り返りをしながら学びに向かう姿勢など、統合して判断する。【主体的に学習に取り組む態度】
- (2) 年間の評価は、前期・後期の成績を統合して行い、さらに下記の観点を加えるものとする。
  - ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。【知識及び技能】
  - ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらい要旨を把握できる。【思考力・判断力・表現力等】
  - ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理をして、目的や糸に応じた適切な題材を決めることができる。【思考力・判断力・表現力等】

### 4. 使用教科書

教科書	東京書籍 『精選論理国語』
副教材	大修館書店 『トータルサポート 新国語便覧』
	河合塾 「2025 共通テスト過去問レビュー [国語]」
	第一学習社 『新版 チャレンジ常用漢字』

### 5. 小テスト実施計画

「チャレンジ常用漢字」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
範囲	2級第1,2回	2級第3,4回	2級第5,6回	2級第7,8回		2級第9,10回

## 6. 年間学習計画

月	授 業 内 容	問 題 演 習
4	オリエンテーション <言語> 「混じり合う言葉」 ドミニク・チェン	1 単位については、文系のための授業になるため、問題演習を中心とした授業を展開する。  「共通テスト問題研究 [国語]」を利用し、文章読解と解法の基礎を身につける。
5	<時間> 「鏡の中の現代社会」 見田宗介  <b>前期中間考査</b>	
6	— 大学入試共通テスト・国語・問題演習開始 —	
7	<b>前期期末考査</b>	
8	<b>【夏季休業】</b>	
9		
10	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; text-align: center;"> <b>【特別編成授業：テキストを使用した総合問題演習】</b>   <b>後期中間考査</b>   <b>【冬季休業】</b>   <b>卒業考査・大学入試共通テスト</b> </div>	
11		
12		
1		
2		
3		

国語科	古典探究	3単位
第3学年	特進Gコース	

### 1. 授業の目標

- (1) 古典を読み伝統的な言語文化への興味・関心を広げようとする。
- (2) 基本的な語彙、文法事項を習得することによって、入試問題を独力で読解できる能力を身に付け、模擬試験で偏差値55以上の成績を収めることができる実力を養成する。
- (3) 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめ、深めようとする。

### 2. 授業内容

- (1) 古文や漢文について、基本となる文法事項を身に付ける。
- (2) 副教材「共通テスト過去問レビュー [国語]」を使って、出題傾向や形式を学ぶ。
- (3) 副教材「体系古典文法要点プラス」を使って、読解に必要な古典文法を身に付ける。
- (4) 副教材「漢文必携」を使って、句法及び読解に必要な語句を身に付けるとともに、「チェックノート」を用いて知識の定着を図る。
- (5) 副教材「重要古文単語315」をもとに小テストを行い、読解に必要な古典単語の知識を身に付ける。
- (6) 教育活動を通して得た知識や感じたことをまとめ、話題・題材に応じた情報収集・分析をし、表現・発表する。
- (7) 入試演習として、私立大学の過去問題に取り組み、実践力を養う。

### 3. 成績評価

- (1) 前期・後期の評価は、中間考査・期末考査・小テストなどの結果、問題演習への取り組み方、授業中における発表・話し合いなどの参加状況、夏・冬の長期休業中の課題、提出物の状況を統合して総合的に判断する。  
【主体的に学習に取り組む態度】
- (2) 年間の評価は、前期・後期の成績を統合して行い、さらに下記の観点を加えるものとする。
  - ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 【知識・技能】
  - ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を捉え、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする。 【思考力、判断力、表現力等】

### 4. 使用教科書

教科書	東京書籍 「精選古典探究」 古文編
	東京書籍 「精選古典探究」 漢文編
副教材	大修館書店 「トータルポータル新国語便覧」
	東京書籍 「精選古典探究 古文編 学習課題ノート」
	東京書籍 「精選古典探究 漢文編 学習課題ノート」
	数研出版 「読解をたいせつにする 要点プラス 体系古典文法」
	桐原書店 「基礎から解釈へ 漢文必携 基本編」 / チェックノート
	桐原書店 「読んで見て覚える 重要古文単語315」
河合塾 「2025共通テスト過去問レビュー [国語]」	

### 5. 小テスト・演習実施計画 「読んで見て覚える重要古文単語315」

	4月	5月	6月	7月	8、9月
範囲	第一章 最重要語 全範囲	第二章 重要語 全範囲	第三章 敬語 全範囲	第一章 最重要語 全範囲	第二章 重要語 全範囲
	10月	11月	12月	1月	
範囲	第三章 敬語 全範囲	全範囲	全範囲	全範囲	

## 6. 年間学習計画

月	授 業 内 容	問 題 演 習
4	オリエンテーション <説話2> 発心集「蓮花城、入水のこと」	「重要古文単語315」小テストを実施計画に則り、実施する。  「体系古典文法」「漢文必携」を用いて、古典文法および漢文句法を総復習する。  「共通テスト問題研究 [国語]」を用いた総合演習
5	<日記2> 紫式部日記「女郎花」 <史話> 十八史略「赤壁之戦」	
6	<b>前期中間考査</b> ○古典文法総復習 (用言の活用、助動詞、敬語、和歌等) ○漢文句法総復習 (再読文字、否定、受身、使役、疑問・反語 等)	
7	大学入学共通テスト演習開始	
8	<b>前期期末考査</b>	
9	<b>【夏季休業】</b> 授業の目標(3)については適宜実施する。 その際、図書館やICTなどを適宜活用する。	
10	<b>【特別編成授業：大学入試過去問を使用した総合問題演習】</b> 大学入試問題は適宜印刷して使用する。	
11	<b>後期中間考査</b>	
12	<b>【冬季休業】</b>	
1	<b>卒業考査・大学入学共通テスト</b>	
2		
3		

地 歴 科	地 理 探 求	4 単 位
第 3 学 年	特進Gコース【理系】	

<授業目標>

地理を中心に世界史との比較において理解を深めつつ、世界的意義をもっている典型的な地理的事象・地域を具体的に取り上げ、地理的な法則性を見つけ出すような判断力を身に着ける。

大学入試を考慮した授業展開をし、共通テストでは70%以上の成果を目指す。

<授業内容>

3年次では第Ⅰ編の「人・モノ・金のつながり」、「人口、村落・都市」、「文化と国家」に加え第Ⅱ編の「現代世界の地誌的考察」で各国地誌を学習する。授業中に統計の数値を取り上げ、時代による変化の状況や要因について論理的に理解できるようにしながら、解法へのアプローチ法も身に付けさせる。

<学習到達度>

- ・ 单元ごとの小テストでは、70%以上の得点率を目標とする。
- ・ 各模擬試験においては、偏差値55以上を目標とする。

<課外や他の授業との関連>

本授業で扱う内容以外については、以下の要領で3年次修了まで実施する。

年次	授業 or 課外	内 容	期間 or 単位数
2 年	地理総合	「地図でとらえる現代世界」、「国際理解と国際協力」	3 単位
3 年	地理探求	「現代世界の系統的考察」、「現代世界の地誌的考察」	4 単位
	通常課外	系統地理及び地誌全般	全15回

<留意点>

- ・ 地図帳は授業中頻繁に使用するので必ず持ってくること。
- ・ 授業中に確認した都市などは必ず地図帳で印をつけておくこと。

<成績評価>

定期考査、小テスト、授業態度、出席状況、課題提出等すべての学習活動を総合して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3観点別に5段階で評価する。

<使用教材>

	書 名	発 行 所
教 科 書	新詳地理探求	二宮書店
	高等地図帳	二宮書店
副 教 材	新編 地理資料2023	東京法令出版
	新地理総合ノート	帝国書院

<年間計画>

月	週	授 業 内 容
4	1	交通と通信
	2	交通と通信
	3	貿易・観光
5	4	貿易・観光
	5	人口
	6	人口
	7	前期中間考査
6	8	村落・都市
	9	村落・都市
	10	村落・都市
	11	生活文化と言語・宗教
7	12	生活文化と言語・宗教
	13	前期期末考査
	14	生活文化と言語・宗教
8	15	国家とその領域
	16	夏季休業
9	17	現代世界の諸地域（東アジア）
	18	現代世界の諸地域（東南アジア・南アジア）
	19	現代世界の諸地域（西アジアとアフリカ）
	20	現代世界の諸地域（ヨーロッパ）
10	21	現代世界の諸地域（ヨーロッパ）
	22	現代世界の諸地域（南北アメリカ）
	23	現代世界の諸地域（南北アメリカ）
	24	現代世界の諸地域（オセアニア）
11	25	現代世界の諸地域（日本）
	26	大学入学共通テスト対策（問題演習）
	27	大学入学共通テスト対策（問題演習）
	28	後期中間考査
12	29	大学入学共通テスト対策（問題演習）
	30	大学入学共通テスト対策（問題演習）
	31	大学入学共通テスト対策（問題演習）
	32	大学入学共通テスト対策（問題演習）
1		冬季休業
	33	大学入学共通テスト対策（問題演習）
	34	大学入学共通テスト対策（問題演習）
	35	卒業考査（大学入学共通テスト）

地 歴 科	世界史探究・世界史特講	3 単位 + 2 単位
第 3 学年	特進 G コース【文系】	

#### <授業目標>

1. 世界史の学習を通じて、現代社会を生きていく上で必要不可欠な判断力・批判力を育て、適切な価値観を身につける。日本の歴史との違いや共通点を一掃深く理解する。
2. 大学入試問題（国公立二次・私立個別・共通テスト）に対処できる学力を養成する。

#### <授業内容>

1. 1年次の歴史総合及び公共（各2単位、計4単位）の知識を前提として、2～3年次に、人類誕生から21世紀までの世界の歴史を学ぶ。諸地域の主要な歴史の流れと各地域の関係に着目する。
2. 2年次世界史探究（3単位）では、古代から中世の歴史（教科書前半部分）を扱った。
3. 3年次（計6単位）では、近世から現代の歴史（教科書後半部分）を学習する。
4. 授業形態は基本的に講義形式である。講義により世界史の基礎的事項を習得するとともに、歴史事象や流れを論理的にとらえられるようにすることを目的とする。
5. 生徒自身が歴史事象に疑問点を見つけ出し、それを自ら解決しようとする探求心を育成するため、発表・論述といった言語活動や視聴覚教材を活用した授業を多く取り入れていく。

#### <課外や他の授業との関連>

2年次では、地理総合（2単位）を必修科目として並行して履修した。3年次では世界史探究（4単位）を世界史特講（2単位）とともに継続して履修し、さらに政治経済（3単位）を履修する。

課外授業（ゼミナール）については、受験科目としての必要性に応じて設定される。

#### <成績評価>

1. 定期考査・確認テスト・授業態度・ノートや課題の提出状況などを評価の対象とする。
2. 下記の3観点に基づき、総合的に評価を行う。
  - ①知識・技能 …定期考査・確認テスト等において、正確な解答を作成できているか。歴史的事象の原因とその意義（原因→事象→影響）が常に意識できているか。論述において、論理的な表現ができているか。
  - ②思考・判断・表現 …授業中の教師との問答や論述の表現の中で、自ら疑問点を見つけ出し、自ら解決しようとする姿勢ができているか。
  - ③主体的に学習に取り組む態度 …授業中における講義を聴く態度、ノートへの記載の質、発問に対する回答を行う姿勢がしっかりできているか。

#### <学習到達度>

1. 定期考査では、80%以上の得点率を目標とする。
2. 模擬試験では、偏差値70以上を目標とする。

#### <使用教材>

使用教材	書 名	発 行 所
教科書	詳説世界史探究	山川出版
副教材	ニューステージ 世界史詳覧	浜島書店

<年間計画>

月	週	授 業 内 容
4	1	「ヨーロッパの海洋進出」
	2	「ルネサンス」 「宗教改革」
	3	「主権国家体制の成立」 「オランダ・イギリス・フランスの台頭」
5	4	「北欧・東欧の動向」
	5	「科学革命と啓蒙思想」
	6	「産業革命」 「アメリカ合衆国の独立と発展」
	7	<b>前期中間考査</b>
6	8	「フランス革命とナポレオンの支配」
	9	「ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動」
	10	「アメリカ合衆国の発展」 「19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄」
	11	「西アジア地域の変容」 「南アジア・東南アジアの植民地化」
7	12	「東アジアの激動」 「第2次産業革命と帝国主義」
	13	<b>前期期末考査</b>
	14	「列強の世界分割と列強体制の二分化」
8	15	「アジア諸国の変革と民族運動」
	夏季休業	
9	16	「第一次世界大戦とロシア革命」
	17	「ヴェルサイユ体制」
	18	「戦間期の欧米諸国」
	19	「アジア・アフリカ地域の民族運動」
10	20	「世界恐慌」
	21	「ヴェルサイユ体制の崩壊」
	22	「第二次次世界大戦」
	23	「ソ連・東欧と米ソ冷戦」
11	24	「冷戦後の諸問題」
	25	「戦後の中国・朝鮮」
	26	「戦後の米国・西欧」
	27	<b>後期中間考査</b>
	28	「戦後の南・東南アジア」
12	29	「戦後の西アジア・アフリカ」
	30	「戦後のラテンアメリカ」 「20世紀の文化・環境問題」
	31	特別編成授業（入試対策）
	32	特別編成授業（入試対策）
1	冬季休業	
	33	特別編成授業（入試対策）
	34	特別編成授業（入試対策）
	35	<b>大学入学共通テスト</b>

地 歴 科	日本史探求	3 単位
第 3 学年	特進Gコース [文系]	

<授業目標>

日本史の学習を通じて現代社会に対する適正な判断力・批判力を育成し、バランスのとれたより良い価値観を身に付けさせる。共通テストを主眼とした大学入試問題に対応できる実力を養成する。自ら疑問を持ち、調べ、考察し、答えを導き出す過程を通じて論理的思考力を育成するとともに、理解した内容を発表、論述する言語活動を通じて理解の深化をはかり、表現力を育成する。

<授業内容>

近世・近代・現代史

近世史は2年次終了時点からのスタートとなる。鎖国により近代日本の基礎となる日本独自の文化、価値観が完成された時代であることを認識した上で近代史に結びつけていきたい。近代史については現代社会の成立に直結する時代であるがゆえに、受験用知識という位置づけにとどまらず、政治・経済・外交等多岐にわたる分野同士をしっかりと連結できる理解力を身に付けさせる。現代史についても最近の入試では必須事項となってきたのでかなり踏み込んでいきたい。授業形態は基本的には講義形式である。講義により日本史の基礎的事項を理解させるとともに、歴史事象や流れを論理的にとらえさせる。板書を実施せずノート学習となるが、講義のポイントをどれだけノートに書き込めるかが授業に集中しているかどうかの判断材料となる。生徒自身が歴史事象に疑問点を見つけ出し、それを自ら解決していくという探求心を育成するため、発表、論述といった言語活動を多彩に盛り込むことで平板な授業形式にならないように努めたい。後期中間考査まで授業実施予定であるが、早めに終了した時点で演習授業に入る。

<課外や他の授業との関連>

本授業で扱う内容以外については、以下の要領で3年次修了まで実施する。

年次	授業or課外	内 容	期間or単位数
3年次	日本史特講	日本史探求の補講的授業	2 単位
	課外ゼミ	確認テスト、共通テスト問題演習	毎週 1 回

<留意点>

- ・確認テストを欠席した場合は、後日2日間以内に受験しにくること。
- ・授業の中での理解、確認テストを通じての定着を常に意識していること。それが最も効率的、かつ有効な学習方法であり、他教科の学習時間を確保するものである。

<成績評価>

下記の3観点に基づき総合的に評価をする。

- ・主体的学習に取り組む態度・・・授業中における聴講の姿勢、ノートへの記載の量と質、発問に対する回答の姿勢がしっかりできているか。
- ・思考、判断、表現・・・・・・・・・・授業中の教師との問答、論述の表現の中で、自ら疑問点を見つけ出し、自ら解決していこうとする姿勢ができていくか。
- ・知識・技能・・・・・・・・・・定期考査、小テスト等において正確な解答を作成することができているか。歴史的事象の要因とその意義（原因→事象→影響）が常に意識できているか。発表、論述で論理的な表現ができていくか。

<学習到達度>

模擬試験得点率70%を平常の目標とし、最終的にはセンター試験得点率90%を目指す。

<使用教材>

使用教材	書 名	発 行 所
教 科 書	詳説 日本史	山川出版社
副 教 材	詳説 日本史史料集	山川出版社
	新詳 日本史	浜島書店
	一問一答用語問題集	山川出版社

<年間計画>

月	週	授 業 内 容
4	1	「戦国大名の登場」「織豊政権」「江戸幕府の成立」「幕藩体制」「幕府と藩の機構」
	2	「朝廷と寺社」「村と百姓」「町と町人」「身分秩序」
	3	「初期の外交」「鎖国政策」「長崎貿易」「朝鮮と琉球・蝦夷地」
5	4	「平和と秩序の確立」「元禄時代」「正徳の政治」「農業生産の進展」「諸産業の発達」
	5	「交通の整備」「商業の展開」「享保の改革」「田沼時代」
	6	「寛政の改革」「文化・文政時代」「天保の改革」「列強の接近」
	7	<b>前期中間考査</b>
6	8	「開国」「開港とその影響」「政局の転換」「公武合体運動と尊攘運動」
	9	「討幕運動の展開」「幕府の滅亡」「戊辰戦争と新政府の発足」「廃藩置県」
	10	「地租改正」「殖産興業」「初期の国際問題」
	11	「自由民権運動」「松方財政」「民権運動の激化」
7	12	「憲法の制定」「諸法典の編纂」「初期議会」「条約改正」
	13	<b>前期期末考査</b>
	14	「朝鮮問題」「日清戦争と三国干渉」「中国分割と日英同盟」
8	15	「日露戦争」「日露戦後の国際関係」「産業革命」「重工業の形成」
	16	夏季休業
9	17	「社会運動の発生」「大正政変」「第一次世界大戦」「日本の中国進出」「大戦景気」
	18	「政党内閣の成立」「パリ講和会議」「ワシントン会議と協調外交」
	19	「護憲三派内閣の成立」「戦後恐慌から金融恐慌へ」「金解禁と世界恐慌」
	20	「満州事変」「政党内閣の崩壊と国際連盟脱退」「恐慌からの脱出」
10	21	「二・二六事件」「三国防共協定」「日中戦争」「第二次世界大戦の勃発」
	22	「太平洋戦争のはじまり」「戦局の展開」「敗戦」「占領と改革の開始」「民主化政策」
	23	「冷戦体制の形成と東アジア」「占領政策の転換」「朝鮮戦争と日本」「講和と安保条約」
	24	「冷戦構造の世界」「独立回復後の国内再編」「55年体制の成立」
11	25	「安保条約の改定と安保闘争」「保守政権の安定」「朝鮮特需と経済復興」「高度経済成長」
	26	「消費革命と社会の変貌」「ドル＝ショック」「高度成長の終焉と保守政権の動揺」
	27	「経済大国への成長」「冷戦から内戦へ」「55年体制の崩壊」
	28	「バブル経済から平成不況へ」「経済危機の深まりと国内改革の急展開」
12	29	<b>後期中間考査</b>
	30	演習授業（共通テスト対策）
	31	演習授業（共通テスト対策）
	32	演習授業（共通テスト対策）
1	33	冬季休業
	34	演習授業（共通テスト対策）
	35	演習授業（共通テスト対策）
		<b>共通テスト</b>

地 歴 科	日本史特講	2 単位
第 3 学年	特進Gコース（文系）	

<授業目標>

日本史の学習を通じて現代社会に対する適正な判断力・批判力を育成し、バランスのとれたより良い価値観を身に付けさせる。共通テストを主眼とした大学入試問題に対応できる実力を養成する。自ら疑問を持ち、調べ、考察し、答えを導き出す過程を通じて論理的思考力を育成するとともに、理解した内容を発表、論述する言語活動を通じて理解の深化をはかり、表現力を育成する。

<授業内容>

日本史探求と日本史特講の履修者が同じであるため、この時間においても授業を実施することとする。内容は室町時代から現代に至るまでの文化史、並びに演習を予定している。但し、授業担当教員によっては日本史探求で予定している近世史を実施する場合もある。演習は確認小テストとセンター試験過去問題と大学共通テスト過去問題を実施していくが、全範囲が終了した時点から開始していく。繰り返し古代から現代までの問題を解くことで解法パターンをしっかりと身につけて欲しい。

<課外や他の授業との関連>

本授業と関係する授業は以下の通りである。

年次	授業or課外	内 容	期間or単位数
3年次	日本史探求	近世・近代・現代史講義	3単位
	課外ゼミ	確認テスト、共通テスト問題演習	毎週1回

<留意点>

- ・授業の中での理解、確認テストを通じての定着を常に意識していること。それが最も効率的、かつ有効な学習方法であり、他教科の学習時間を確保するものである。
- ・演習はマークシートを利用するため、正確な記入に細心の注意を払うこと。

<成績評価>

下記の3観点に基づき総合的に評価をする。

- ・主体的学習に取り組む態度・・・授業中における聴講の姿勢、ノートへの記載の量と質、発問に対する回答の姿勢がしっかりできているか。
- ・思考、判断、表現・・・・・・・・・・授業中の教師との問答、論述の表現の中で、自ら疑問点を見つけ出し、自ら解決していこうとする姿勢ができていくか。
- ・知識・技能・・・・・・・・・・定期考査、小テスト等において正確な解答を作成することができているか。歴史的事象の要因とその意義（原因→事象→影響）が常に意識できているか。発表、論述で論理的な表現ができていくか。

<学習到達度>

模擬試験得点率50%を平常の目標とし、最終的には共通テスト得点率70%を目指す。

<使用教材>

使用教材	書 名	発 行 所
教 科 書	詳説 日本史	山川出版社
副 教 材	詳説 日本史史料集	山川出版社
	新詳 日本史	浜島書店
	一問一答用語問題集	山川出版社

<年間計画>

月	週	
4	1	「室町文化 特徴・仏教・神道・学問」
	2	「室町文化 文学・芸能・茶道・華道」
	3	「室町文化 建築・庭園・絵画・工芸・文化の地方普及」
5	4	「桃山文化」
	5	「寛永文化」
	6	「元禄文化 特徴・儒学・歴史学・古典・実学」
	7	<b>前期中間考査</b>
	8	「元禄文化 仏教・文芸・絵画・工芸」
6	9	「宝暦・天明期の文化 洋学・国学・」
	10	「宝暦・天明期の文化 教育・文芸・絵画」
	11	「化政文化 学問・思想・文芸」
	12	「化政文化 絵画・民衆文化」
7	13	<b>前期期末考査</b>
	14	「文明開化」
	15	「明治文化 特徴・思想・宗教・教育・ジャーナリズム」
8	夏季休業	
	16	「明治文化 学問・文学」
9	17	「明治文化 演劇・音楽・絵画・建築・彫刻」
	18	「大正・昭和前期文化 学問・文学」
	19	「大正・昭和前期文化 芸術・マスメディアの発展」
	20	「戦時下の文化」
10	21	「占領期の文化」
	22	「高度経済成長期～現代の文化」
	23	演習授業（共通テスト対策）
	24	演習授業（共通テスト対策）
11	25	演習授業（共通テスト対策）
	26	演習授業（共通テスト対策）
	27	演習授業（共通テスト対策）
	28	<b>後期中間考査</b>
	29	演習授業（共通テスト対策）
12	30	演習授業（共通テスト対策）
	31	演習授業（共通テスト対策）
	32	演習授業（共通テスト対策）
	冬季休業	
1	33	演習授業（共通テスト対策）
	34	演習授業（共通テスト対策）
	35	<b>共通テスト</b>

公民科	政治・経済	3単位
第3学年	特進Gコース	

<授業目標>

- ・人間の尊重と探求の精神に基づき、広い視野に立って理解を深め、政治・経済における諸問題に対する判断力の育成を図る。
- ・国際社会の一員として必要な自己のあり方や生き方についての考える能力と態度の育成を図る。
- ・今年度は国内政治分野と国内経済分野の基礎的な知識を養成する。
- ・事象の暗記による理解に終始せず、社会の一員としての公民の資質（批判的な視点で幅広い情報を収集する、意見を述べる、他の意見を聞く、意見を集約する、意見をまとめ、発表する）を涵養する。
- ・「政治・経済」での共通テストに対応できる実力を養成する。また、「公共」、「倫理・政治・経済」での受験に対応できる実力も養成する。

<授業内容>

- ・1年時に学習した「公共」の内容をもとに、さらに深い学びと知識の習得をおこなう。
- ・よりよい社会の実現のために現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解につなげる。我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。
- ・授業内で時事問題を積極的に取り上げるだけでなく、自ら積極的に考える力を養成するため、新聞やインターネットを使い社会問題に対して調べ、発表するといった作業的な学習を取り入れる。
- ・探求学習では、現代の社会における問題点に焦点を当て、集団討論、体験学習、レポート作成などを通じてその問題の原因・現状・対策の理解を深めていく。

<授業到達度>

- ・定期考査、確認テストを実施し、80%以上の得点率を目標とする。

<留意点>

- ・教科書、資料集、ノート、問題集は授業には必ず持ってくること。
- ・配布されたプリントや試験は必ずファイルして保管すること。
- ・新聞は必ず目を通して、国内外の社会でおきている事柄に関心を持つこと。
- ・政治・経済分野だけでなく、倫理や日本史、世界史、地理にも大きく関連する科目のため、これらの科目を学ぶ上での基礎となることを意識し、積極的に授業を受けること。

<成績評価>

以下の3観点から5段階評価をつける

- ①主体的に学習に取り組む態度：通常の授業での聞く姿勢、発言など授業態度を基本とし、課題の提出状況や取り組みの状態、探求学習での積極的な取り組みなどにより評価する。
- ②思考・判断・表現：探求学習における集団討論やレポートなどでの評価が中心となるが、通常授業での発言や課題の取り組み状態により評価する。
- ③知識・技能：将来、市民として社会参加するために必要な知識、情報収集力、分析力、判断力を考査や課題提出などを通じて評価する。

<使用教材>

使用教材	書名	発行所
教科書	詳述 政治・経済	実教出版
副教材	ニューコンパスノート政治・経済 2024	とうほう

<年間計画>

月	週	授 業 内 容
4	1	民主政治の基本原理 政治と法
	2	民主政治の基本原理 人権保障の発展
	3	民主政治の基本原理 国民主権と民主主義の発展
5	4	日本国憲法の成立
	5	日本国憲法の成立
	6	平和主義
	7	<b>前期中間考査</b>
6	8	基本的人権の保障
	9	人権の広がり
	10	日本の政治機構 立法
	11	日本の政治機構 行政
7	12	日本の政治機構 司法
	13	<b>前期期末考査</b>
	14	日本の政治機構 地方自治
8	15	日本の政治機構 地方自治
	夏季休業	
9	16	現代日本の政治 戦後政治の歩み
	17	選挙制度
	18	選挙制度
	19	政治参加と世論
10	20	政治参加と世論
	21	経済活動の意義
	22	経済社会の形成と変容
	23	現代経済のしくみ 市場機構
	24	現代経済のしくみ 現代の企業
11	25	現代経済のしくみ 国民所得と経済成長
	26	現代経済のしくみ 金融のしくみ
	27	現代経済のしくみ 財政のしくみ
	28	<b>後期中間考査</b>
12	29	経済の停滞と再生
	30	日本の中小企業と農業
	31	国民の暮らし
	32	環境保全と公害防止
1	冬季休業	
	33	労使関係と労働条件の改善
	34	社会保障の役割
	35	<b>卒業考査</b>

数学科	数学Ⅲ（4単位）・数学C（3単位）	7単位
第3学年	普通科 特進Gコース（理系）	

（授業目標）

- ・事象を数学的に考察し、処理する能力を高める。
- ・数学的なものの見方や考え方の良さの認識を通して、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用する態度を育てる。
- ・基本的原理・法則の理解を深め、更に発展的な事項や程度の高い問題に取り組むことにより、難関医学系・理工系の進学を目指す。

（授業内容）

- ・既修事項の確実な理解と、副教材や入試問題（大学入学共通テスト）等を使用した応用的な事柄を実践的に取り組ませるなど、更に発展的な事項及び程度の高い問題に取り組ませる。それらを通して数学的な見方や考え方をより深く理解させる。

（成績評価）

- ・考査はコース毎に共通問題をする。
- ・成績評価については、コース毎に概ね共通評価とする。考査成績、授業態度、課題の提出状況等を勘案して、総合的に評価する。
- ・表・式・グラフなどを用いて数量の関係を数学的に表現し、自らの考えを他者に伝える活動を総合的に評価する。
- ・話し合い活動の中で、既習事項を活用して自らの考えを深め、考察し発表する過程を総合的に評価する。

### 数学Ⅲの評価のポイント

〈関心・意欲・態度〉

極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているかをワークシートへの取り組みやノートの記述内容等で見える。

〈数学的な見方や考え方〉

事象を数学的に考察し表現したり思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けているかをレポート、質問、小テスト、考査等で見える。

〈数学的な技能〉

極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているかを課題テスト、小テスト、考査で見える。

〈知識・理解〉

極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているかを生徒同士の相互評価やレポート、質問、小テスト、考査等で見える。

## 数学Cの評価のポイント

### 〈関心・意欲・態度〉

ベクトル、平面上の曲線と複素数平面に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているかをワークシートへの取り組みやノートの記述内容等で見ると見る。

### 〈数学的な見方や考え方〉

事象を数学的に考察し表現したり思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトル、平面上の曲線と複素数平面における数学的な見方や考え方を身に付けているかをレポート、質問、小テスト、考査等で見ると見る。

### 〈数学的な技能〉

ベクトル、平面上の曲線と複素数平面において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているかを課題テスト、小テスト、考査で見ると見る。

### 〈知識・理解〉

ベクトル、平面上の曲線と複素数平面における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているかを生徒同士の相互評価やレポート、質問、小テスト、考査等で見ると見る。

### (使用教材)

使用教材	書名	発行所
教科書	数学Ⅲ、数学C	数研出版
副教材	4STEP数学Ⅲ、4STEP数学C	数研出版

### (3年間の履修展開)

1 学年	2 学年	3 学年
数学 I (4)	数学 II (4)	数学 III (4)
数学 A (3)	数学 B (2)	数学 C (3)

### (学習方法)

- 本質的な理解とは  
数学の勉強では、必ずしも、「理解できる」と「解ける」は一致しない。そのため、何となくわかるのではなく、より深く理解することが必要となる。毎日の学習の中に、副教材を取り入れ、言われてやるのではなく自ら学習する習慣をつけよう。
  - 模擬試験対策  
定期的に行われる模擬試験対策には、基本問題の演習や過去問題に取り組む必要がある。  
また、数学は論理だけではなく、計算によって解を導くため、相応の計算力が必要条件となる。頻出問題を繰り返し解き、解答パターンを暗記することで成績向上につなげよう。
  - 試験の結果の活用をしよう。  
定期的実施される模擬試験は結果だけでなく、自己の課題として、今後活用しよう。
- 苦手な単元を明らかにして、復習に力を入れることで実力を伸ばし、入試対策に取り組んでいこう。

## (数学Ⅲ)

月	単元名	授業内容
4	第1章 極限	分数関数、無理関数、逆関数と合成関数 補充問題 数列の極限、無限等比数列
5		無限級数 関数の極限 三角関数と極限 関数の連続性
前期中間考査		
6	第2章 微分法	微分係数と導関数 導関数の計算 いろいろな関数の導関数 高次導関数 曲線の方程式と導関数
前期期末考査		
7	第3章 微分法の応用	接線の方程式、平均値の定理 関数の値の変化、関数のグラフ 方程式、不等式への応用 速度と加速度、近似式 補充問題
夏期休業中課外		数学Ⅲの既習内容
9	第4章 積分法とその応用	不定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法、いろいろな関数の不定積分
10	(特編授業)	定積分とその基本性質 置換積分と部分積分法、定積分のいろいろな問題 面積、体積 道のり、曲線の長さ 補充問題
11	総合演習Ⅲ	関数、極限 微分法とその応用 積分法とその応用
後期中間考査		
12		大学入学共通テスト対策 大学入学共通テスト対策 大学入学共通テスト対策
冬季休業中課外		
1		大学入学共通テスト策 国公立2次・私大対策

## (数学C)

月	単元名	授業内容
4	第1章 平面上のベクトル	平面上のベクトル、ベクトルの演算 ベクトルの成分、内積 位置ベクトル、ベクトルと図形
5		ベクトル方程式 補充問題、章末問題
前期中間考査		
6	第2章 空間のベクトル	空間の座標、空間のベクトル、ベクトルの成分 ベクトルの内積、位置ベクトル ベクトルと図形、座標空間における図形
前期期末考査		
7	第1章 複素数平面	複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理 複素数と図形 補充問題、章末問題
夏期休業中課外		数学Cの既習内容
9	第2章 式と曲線	放物線、楕円、双曲線 2次曲線の平行移動
10	(特編授業)	2次曲線と直線 2次曲線の接線の方程式 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式
11	総合演習	補充問題、章末問題 大学入学共通テスト対策 大学入学共通テスト対策
後期中間考査		
12		大学入学共通テスト対策 大学入学共通テスト対策 大学入学共通テスト対策
冬季休業中課外		
1		大学入学共通テスト対策 国公立2次・私大対策

数学科	数学C (5単位)	5単位
第3学年	普通科 特進Gコース (文系)	

(授業目標)

- ・事象を数学的に考察し、処理する能力を高める。
- ・数学的なものの見方や考え方の良さの認識を通して、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用する態度を育てる。
- ・基本的原理・法則の理解を深め、更に発展的な事項や程度の高い問題に取り組むことにより、難関医学系・理工系の進学を目指す。
- ・全ての単元において基礎的な項目を確認しつつ、既習事項を関連付けて問題に対応する能力を身につける。さらに、発展的な事項や程度の高い問題に取り組むことにより、大学入試に対応できる能力の育成を図る。

(授業内容)

- ・基本事項を確認しながら複雑な問題に対するアプローチの仕方を習得する。
- ・問題の解法を詳しく解説すると共に、類似・発展的な問題も導入し、数学的思考能力を育てる授業を展開する。
- ・受験に対しては、副教材や入試問題等を利用し、演習を通して解法を理解させるだけでなく、問題解法にかかる時間をできるだけ短縮させる技術を習得させる。

(成績評価)

- ・考査は応用問題の解法能力を問うものとする。
- ・成績評価については、コース毎に概ね共通評価とする。考査成績、授業態度、課題の提出状況等を勘案して、総合的に評価する。
- ・表・式・グラフなどを用いて数量の関係を数学的に表現し、自らの考えを他者に伝える活動を総合的に評価する。
- ・話し合い活動の中で、既習事項を活用して自らの考えを深め、考察し発表する過程を総合的に評価する。

(使用教材)

使用教材	書名	発行所
教科書	数学C	数研出版
副教材	4STEP 数学C	数研出版
副教材	共通テスト対策 実力養成 重要問題演習	ラーンズ

(3年間の履修展開)

1学年	2学年	3学年
数学I (4)	数学II (4)	数学C (5)
数学A (2)	数学B (2)	

(学習方法)

- ・本質的な理解とは。  
数学の勉強では、必ずしも、「理解できる」と「解ける」は一致しない。そのため、何となくわかるのではなく、より深く理解することが必要となる。毎日の学習の中に、副教材を取り入れ、言われてやるのではなく自ら学習する習慣をつけよう。
- ・模擬試験対策  
定期的に行われる模擬試験対策には、基本問題の演習や過去問題に取り組む必要がある。  
また、数学は論理だけではなく、計算によって解を導くため、相応の計算力が必要条件となる。頻出問題を練

り返し解き、解答パターンを暗記することで成績向上につなげよう。

- ・試験の結果の活用をしよう。  
定期的に行われる模擬試験は結果だけでなく、自己の課題として、今後にも活用しよう。  
苦手な単元を明らかにして、復習に力を入れることで実力を伸ばし、入試対策に取り組んでいこう。

### 数学Cの評価のポイント

#### 〈関心・意欲・態度〉

ベクトル、平面上の曲線と複素数平面に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているかをワークシートへの取り組みやノートの記述内容等で見える。

#### 〈数学的な見方や考え方〉

事象を数学的に考察し表現したり思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトル、平面上の曲線と複素数平面における数学的な見方や考え方を身に付けているかをレポート、質問、小テスト、考査等で見える。

#### 〈数学的な技能〉

ベクトル、平面上の曲線と複素数平面において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているかを課題テスト、小テスト、考査で見える。

#### 〈知識・理解〉

ベクトル、平面上の曲線と複素数平面における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているかを生徒同士の相互評価やレポート、質問、小テスト、考査等で見える。

(年間計画)

月	単元名	授業内容
4	第1章 平面上のベクトル	平面上のベクトル、ベクトルの演算、ベクトルの成分、内積 位置ベクトル、ベクトルと図形、ベクトル方程式 補充問題、章末問題
5	第2章 空間のベクトル	空間の座標、空間のベクトル、ベクトルの成分、ベクトルの内積 位置ベクトル、ベクトルと図形、座標空間における図形
前期中間考査		
6	第3章 複素数平面	複素数平面、複素数の極形式、ド・モアブルの定理 ド・モアブルの定理、複素数と図形 補充問題、章末問題
前期期末考査		
7	第4章 式と曲線	放物線、楕円、双曲線 2次曲線の平行移動、2次曲線と直線 2次曲線の接線の方程式 曲線の媒介変数表示、極座標と極方程式 補充問題、章末問題
夏期休業中課外		数学Cの既習内容
9	総合演習	大学入学共通テスト対策 (I A II B)
	総合演習	大学入学共通テスト対策 (I A II B)
10	(特編授業)	大学入学共通テスト対策 (I A II B)
11		大学入学共通テスト対策 (I A II B)
後期中間考査		
12		大学入学共通テスト対策 (I A II B)
冬季休業中課外		
1		大学入学共通テスト対策 国公立2次・私大対策

理 科	物 理	4 単位
第3学年	特進Gコース（理系）	

### 【授業目標】

- (1) 物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
- (2) 日常生活の中で物理学の果たしている役割を取り上げ、身近で興味あるものにし、社会人としての広い視野に立った状況判断ができることを目指す。
- (3) 観察、実験を行い、その結果を分析し解釈して自らの考えを導き出し、表現することで科学的な思考力や判断力、表現力を育成する。
- (4) 大学入試共通テスト、難関国公立大理工系学部二次、難関私立大理工系学部受験に対応できる能力を身につけ、高得点が得られるようにする。
- (5) 記述模擬試験コース内平均偏差値 60 点を旨す。

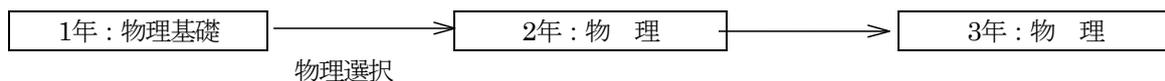
### 【授業内容】

- (1) 平面運動、運動量と力積、円運動と単振動、波動、電気と磁気、物質と原子について、物理基礎の知識をもとに、それぞれの分野での適用やはたらき、役割の重要性について学習する。
- (2) 基礎基本の事項の内容の予習・復習をしっかりとやり通す態度を身につけさせ理解を深める。
- (3) 観察や実験を行い、科学的思考能力の育成を図る。
- (4) 副教材を利用し、大学入試共通テストの基本問題から国公立大二次試験、私立大一般試験の応用問題まで対応できるよう、実力を向上させる。
- (5) 学習法としては常に日常生活における疑問・関心をもって授業に参加する事が望ましい。そして、それを系統的に理解するように心がける。

### 【到達度】

定期考査の他に、確認テストを実施する。テストにおいて概ね 80%以上の得点が到達目標である。これにより学習内容の確認・定着を図る。

### 【3年間の履修展開】



### 【入試科目への対応】

「物理」は、国公立・私立大学理工系学部への進学希望者には必須であり、国公立大二次試験、私立大一般試験の受験科目となっている。また、大学入試共通テストの理科の選択科目としても対応している。

### 【成績評価】

成績評価は、定期考査、確認テスト等による理解度及び到達度の評価と観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表等の評価を、「3観点」に基づく観点別評価で総合的に判断し、5段階で評定する。また、定期考査についても、「3観点」に基づく問題を出題する。

「3観点」①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

### 【使用教材】

教材名	書 名	発行所
教科書	高等学校 物理	第一学習社
副教材	セミナー物理基礎+物理	第一学習社
副教材	大学入学共通テスト対策チェック&演習（現行課程版）	数研出版
副教材	フォトサイエンス物理図録	数研出版

＜年間授業計画＞ 物理 (R6 特進G・理系3年)

実験・観察を通して3観点(①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的な学習に取り組む態度)による評価を行う

月	学習単元	学習内容	学習のねらい	
前期	4 第Ⅲ章 電気と磁気 第2節 電流 ①電流と抵抗	電荷と電流 オームの法則と自由電子 抵抗率の温度変化 ジュール熱と自由電子	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由電子の流れと電流について学習し、オームの法則について理解する。</li> <li>ジュールの法則、電流とエネルギーに関する法則性を理解する。</li> </ul>	
	5 ②直流回路 ③半導体	電流計 電圧計 電池の起電力と内部抵抗 キルヒホッフの法則 未知抵抗の測定 電池の起電力の測定 非直線抵抗を含む回路 コンデンサーを含む回路 [観察]電流計・電圧計 半導体の性質 半導体の種類 ダイオード トランジスタ	<ul style="list-style-type: none"> <li>合成抵抗を求め、電圧計、電流計の接続を理解する。</li> <li>キルヒホッフの第1法則、第2法則それぞれについて、回路を流れる電流や閉回路の電圧降下の特徴を理解する。</li> <li>ポットトポブリッジや電位差計のしくみを学習し、非直線抵抗やコンデンサーを含む回路について理解する。</li> <li>半導体の性質を学習し、ダイオードやトランジスタのしくみについて理解する。</li> </ul>	
	前期中間考査			
	6 第3節 電流と磁場 ①磁場 ②電流が磁場から受ける力	磁気力 磁場 磁力線 直線電流がつくる磁場 円形電流がつくる磁場 ルンビッドを流れる電流がつくる磁場 磁場中で電流が受ける力 磁化 磁束密度と磁場 平行電流間にはたらく力 [観察]磁場中で電流が受ける力①②④	<ul style="list-style-type: none"> <li>磁気力に関するクーロンの法則を学習し、電流がつくる磁場の強さと磁力線の概形について理解する。</li> <li>理解す磁場中で電流が受ける力について、フレミングの左手の法則や右ねじの関係をを用いて定量的に考える。</li> <li>磁束密度と磁場との関係、磁化の性質を理解し、平行電流間にはたらく力を定量的に理解する。</li> </ul>	
	前期期末考査			
	7 ③ローレンツ力	荷電粒子が磁場から受ける力 磁場中における荷電粒子の運動 ホール効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローレンツ力について学習し、磁場中に入射した粒子の運動を理解する。</li> <li>ローレンツ力を踏まえて、電子の運動に着目し、ホール効果のしくみを理解する。</li> </ul>	
	夏季休業課題：レポート提出「平面運動・運動量の保存・円運動・慣性力と遠心力」			
後期	9 第4節 電磁誘導と交流 ①電磁誘導 ②交流 ③電磁波	電磁誘導の法則 磁場中を動く導体に生じる誘導起電力 誘導起電力とエネルギーの保存 渦電流 自己誘導 コイルにたくわえられるエネルギー 相互誘導 交流の発生 交流と抵抗 交流とコイル 交流とコンデンサー RLC直列回路 共振回路 電気振動 変圧器 電磁波の発見 磁場と電場 電磁波の発生 電磁波の性質 電磁波の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファデーの電磁誘導の法則を学習し、磁場中を動く導体に生じる起電力や、導体を動かすのに要する力や仕事の関係を理解する。</li> <li>自己誘導、相互誘導の現象を理解し、生じる起電力を計算する。</li> <li>交流の発生のしくみを理解し、交流回路における抵抗、コイル、コンデンサーの特性を理解する。</li> <li>電気振動の現象をエネルギーの観点から把握し、固有振動数の式を理解する。</li> <li>変圧器のしくみを理解する。</li> <li>磁場と電場の関係、電磁波の性質や種類を学習し、電磁波がその波長に応じたさまざまなものに利用されていることを理解する。</li> </ul>	
	10 第Ⅳ章 原子 第1節 電子と光 ①電子 ②光の粒子性 ③X線 ④粒子の波動性 第2節 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核と放射線 ③核反応とエネルギー ④素粒子と宇宙	陰極線 電子の比電荷 電子の電荷と質量 光電効果 [観察]陰極線の観察①② X線の発生 X線の波動性 X線の粒子性とコンプト効果 物質波 粒子性と波動性の二重性 原子と原子核 原子の質量 放射線の種類と性質 原子核の放射性崩壊 半減期 質量欠損と結合エネルギー 核反応 素粒子 クォークとレプトン	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子の発見におけるトムソンやミラーの実験について理解する。</li> <li>光電効果における光電子の運動エネルギーと仕事関数との関係を定量的に理解する。</li> <li>X線の発生と原理、特性X線や連続X線、最短波長などについて理解する。</li> <li>ラウエブラッグの実験を学習し、エネルギー保存の法則や、運動量保存の法則を用いて、コンプト効果を定量的に理解する。</li> <li>物質波について学習し、弱い光源によるヤングの実験をもとに、粒子性と波動性の二重性を理解する。</li> <li>ラザフォードの原子模型の難点を把握し、ボーアの水素原子模型の特徴を理解する。</li> <li>放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について理解する。</li> <li>核反応について学習し、反応の際に放出、吸収されるエネルギーを理解する。</li> </ul>	
	11 大学入試共通テスト 対策問題演習	力と運動 エネルギー 波動 電気	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター試験の問題に対応できる基礎力、応用力を身につける。</li> </ul>	
	後期中間考査			
12 大学入試共通テスト 対策問題演習	総合問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター試験の問題に対応できる基礎力、応用力を身につける。</li> </ul>		
冬季休業				
1 国公立大、私立大対策問題演習	総合問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大、私立大入試問題に対応できる基礎力、応用力を身につける。</li> </ul>		

理 科	生 物	4 単 位
第 3 学 年	特進Gコース	

**【授業目標】**（文部科学省「高等学校 学習指導要領 平成 30 年告示」）

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

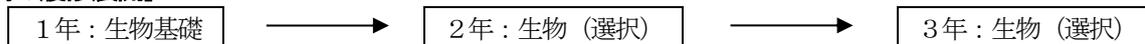
**【授業内容】**

- (1) 生物の発生の仕組みや体の構造・応答などを学び、自己の体の応答や反応について深く考察する。また、生物基礎の内容を踏襲しつつ、生物現象をさらに深く取り扱う。
- (2) 観察と実験を通じた探究活動を行い、それに基づいて学習を進める。観察や実験を行う際は、自ら仮説を立てそれを検証するための手順を設定する。
- (3) 科学やそれを応用した技術と日常生活のつながりを強調する。また、学習内容と職業等の関連性に触れ、学びの意欲を高める。
- (4) ICT機器を活用し、授業内での考察過程の共有や配信された動画の視聴、課題に取り組む。

**【到達度】**

定期考査の他に、各節終了時に確認テストを実施する。テストにおいて概ね80%の得点が当該節の到達目標である。これにより学習内容の確認・定着をはかる。

**【3年間の履修展開】**



生物(4単位)：

- ・細胞を構成する物質について学習する。特にタンパク質については基本的な構造を学習したうえで、酵素などの立体構造と生命活動における働きとの関連を理解させる。
- ・「生物基礎」で履修した呼吸・光合成について復習し、その詳細なしくみを学習する。
- ・「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成について復習し、その詳細なしくみを学習する。
- ・染色体に遺伝子が存在することを学習した上で、減数分裂・配偶子形成・細胞の分化と形態形成のしくみについて学習する。
- ・ニューロンの基本的な構造と働きを学び、受容器から効果器へ情報が伝わる経路を学習する。
- ・植物の環境応答と植物ホルモンとの関連について学ぶ。その際に、様々な受容体が関わっていることに触れる。
- ・生態系における、生物間の関係性及び生物と環境との関係性について学習する。
- ・生命の起源および生物の変遷、進化のしくみ、個々の系統分類の概要を学習する。

**【成績評価】**

成績の評価は、定期考査や確認テスト等による理解度及び到達度の評価と、観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表等の評価を下記の「3観点」に基づく観点別評価で総合的に判断し、5段階に評定する。

「3観点」： ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

なお、定期考査は上記の観点①②に基づく出題をする。

**【使用教材】**

教材名	書 名	発 行 所
教科書	生物 (2年時購入済み)	数研出版
資料集	ニューステージ 新生物図表 (1年次購入済)	浜島書店
問題集	リードLightノート 生物	数研出版
問題集	チェック&演習 生物	数研出版

<年間計画>

月	週	授 業 内 容		観点別学習と重点項目		
4	1	第6章 植物の環境応答	第1節 植物の生活と植物ホルモン	【思考】植物の器官形成 ABCモデル	①②	
	2		第2節 発芽の調節		①③	
	3		第3節 成長の調節		①	
5	4		第4節 器官の分化と化芽形成の調節		①②	
	5		第5節 環境に対応する変化		①②	
	6		第6節 配偶子の形成と受精		①	
	7		前期中間考査			
6	8	第7章 生物群集と生態系	第1節 個体群の構造と性質	【思考】標識再捕法	①②	
	9		第2節 個体群内の個体間の関係		②③	
	10		第3節 異なる種の個体群の関係		②③	
	11		第4節 生態系の物質生産と物質循環		【思考】生態系の物質収支	②③
	12		第5節 生態系と人間生活			②③
7	13	前期期末考査				
	14		第5節 生態系と人間生活		②③	
8	夏季休業					
9	15	総合演習	チェック&演習 生物		①②③	
	16	総合演習	チェック&演習 生物		①②③	
	17	総合演習	チェック&演習 生物		①②③	
	18	総合演習	チェック&演習 生物		①②③	
	19	総合演習	チェック&演習 生物		①②③	
10	20	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
	21	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
	22	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
	23	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
11	24	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
	25	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
	26	後期中間考査				
	27	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
12	28	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
	29	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
	30	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
	31	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
	冬季休業					
1	32	特編授業	チェック&演習 生物		①②③	
	33	大学入学共通テスト				
	34					
	35					

理科	化学	3 単位
第 3 学年	普通科 特進Gコース(理系)	

2024年度

**【授業目標】** (文部科学省「高等学校 学習指導要領 平成 30 年告示」)

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

**【授業内容】**

1. 化学と人間生活との関わりについて関心を高め、化学が物質を対象とする科学であることや、化学が人間生活で果たす役割を理解させ、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付けさせる。
2. 原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解させる。また、物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。さらに、化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解させ、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
3. 授業では、化学反応式を用いた解説が多くなるため、物質を表す化学式は徹底して覚える必要がある。また、実験、観察、創作活動なども行われる。したがって、実験操作や観察の仕方、器具・薬品の取り扱い方の学習も重要である。
4. 学習法は、授業を受けたあとで教科書準拠の問題集を解き、自分の力で解答が出せるまで「繰り返し練習」をすることである。その基礎力をもとに、様々な現象を論理的に思考する応用力を磨いていく。ただし、学習の優先は、英語・数学・国語である。読解力が足りなければ問題や解説の理解ができなくなるし、計算力が足りなければ時間内の解答ができなくなる。また、重要な物質名や反応名を英語で学習することも必要になる。

**【到達度および成績評価】**

定期考査の他に、確認テストを実施する。重要な単元では実験を行い、学習内容の確認・定着を図る。テストにおいて概ね 70%以上の得点が到達目標とする。前期末および学年末の成績評価は 5 段階である。定期考査、確認テストによる理解度および到達度と、観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表、提出物などを下記の「3 観点」で総合的に判断する。

- ①知識・技能                      ②思考・判断・表現                      ③主体的に学習に取り組む態度

なお、定期考査は上記の 3 観点に基づく出題をする。

**【大学選抜試験科目への対応】**

化学基礎を学習すると、大学入学共通テストの受験科目として対応できる。ただし化学基礎を選択した場合、50 点ぶんにしかならないため、基礎科目をもう一つ選択する必要がある。なお、理工、医歯薬、農獣医学部の大学選抜試験では基礎科目の受験ができないので、物理または生物の基礎を付さない科目を履修する必要がある。

**【使用教材】**

教材名	書名	出版社名
教科書	「化学」 Vol.1 理論編, Vol.2 物質編	東京書籍
問題集	セミナー化学基礎+化学	第一学習社
	大学入学共通テスト 化学 予想問題集	進研学参
	新レポートノート化学⑤ 有機化合物	浜島書店

**【年間授業計画】**

授業進度ならびに学習単元は下記の通りである。

<観点別評価> 凡例：①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に取り組む態度

	月	学習単元	実験・探求学習 / 観点別評価
前期	4	<4編 無機物質> ・周期表と元素 ・水素と希ガス ・ハロゲンとその化合物	【実験】塩素の性質①③
	5	・酸素, 硫黄とその化合物 ・窒素, リンとその化合物 ・炭素, ケイ素とその化合物  【前期中間考査】	【実験】硫酸の性質①③ 【実験】硫化水素の性質①③
	6	・アルカリ金属とその化合物 ・アルカリ土類金属とその化合物 ・1, 2族以外の典型金属元素とその化合物 ・遷移元素とその化合物	【実験】金属ナトリウムの性質①③
	7	・金属イオンの分離, 確認  【前期期末考査】 ・金属の利用 ・合金 ・セラミックス	
	8	<5編 有機化合物> ・有機化合物の特徴 ・飽和炭化水素 ・不飽和炭化水素	
	9	・有機化合物の構造式の決定 ・アルコールとエーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸とエステル	【実験】アルコールの性質②③ 【実験】アルデヒドの検出反応①③
後期	10	・油脂とセッケン ・芳香族炭化水素 ・酸素を含む芳香族化合物	【実験】エステルの合成①③ 【実験】セッケンの合成①③
	11	・窒素を含む芳香族化合物 ・染料, 医薬品 ・合成洗剤 ・食品  【後期中間考査】	【実験】医薬品のメカニズム②③
	12	<6編 高分子化合物> ・天然高分子化合物 ・単糖類, 二糖類 ・多糖類	
	1	・アミノ酸, タンパク質, 核酸 ・合成繊維, 合成樹脂, ゴム  【卒業考査】	【実験】タンパク質の検出反応①③ 【実験】天然ゴムの実験室的製法①③
	2		
	3		

※<6編 高分子化合物>「合成高分子化合物」「高分子化合物と人間生活」は授業時数の都合上、実施ができない場合は必要な生徒に個別対応を行う。

保健体育科	体 育	3単位
第3学年	特進Gコース	

**[ 授業目標 ]**

本校における体育授業の目標は、各種の身体活動を通して運動技能を高め、心身共に健康で生涯にわたり運動に親しめる態度を養うことである。

**[ 授業内容・種目 ]**

【 集団行動 】… 集団の約束やきまりを守り、機敏かつ的確に行動する。

- ・ラジオ体操第一（準備体操として通年実施する）
- ・全体行進、番号のかけ方、列の増減などを行う。

【 バドミントン 】

- ・基本となるクリアーが正確に打てるようにする。
- ・応用技術 ドライブ・スマッシュ・ドロップなどの各種ショットが打ち分けられるようにする。
- ・シングルス、ダブルスそれぞれのルールを理解し、ゲームと審判ができるようにする。

【 ハンドボール 】

- ・いろいろな体勢から正確にパスを投げ、また正確にキャッチができるように練習する。
- ・動きの中でパス、キャッチ、シュートの一連の動作がスムーズに行えるようにする。
- ・ゴールキーパーとの連携、チーム戦術を習得しレベルの高い試合ができるようにする。

【 フットサル 】

- ・基本技術であるドリブルとリフティングが正確にできるようにする。
- ・パスとトラッピング 2対1、3対2など動きの中で的確にプレーが行えるようにする。
- ・シュートとコンビネーションプレーをできるようにする。
- ・ルールを理解し、ゲームと審判ができるようにする。

【 ソフトバレー 】

- ・基本姿勢から場面に応じてそれぞれのパスの球質を使い分ける。
- ・ポイントに結びつくような球質のサービスを身につける。
- ・スパイカーに打ちやすいトスを上げられるようにする。
- ・それぞれの技能を習得した段階でゲームを楽しむ。

【 バスケットボール 】

- ・基本技術 パス、ドリブル及び正確なシュートを体得する。
- ・2対2、3対3のコンビネーションプレーを習得する。
- ・ゲームを通してバスケットのルール・審判法を身につける。

【 体育理論 】

- ・体ほぐしの考え方 ・体ほぐしの運動のおこない方
- ・運動と体力 ・体力トレーニングの目的
- ・トレーニングプログラムの作成 ・目的別にみた体力トレーニングの方法①・②
- ・運動によるけが・病気の予防

**[ 授業の留意点 ]**

- 見学希望者は授業開始前に担当教員の許可を得ること。また見学中はジャージを着用すること。
- 個人のジャージ・シューズ等は大切に管理し、貸し借りをしないこと。
- 体育用具・備品は大切に扱うこと。

**[ 成績評価 ]**

【知識・技能】 ・各領域、各種目の運動の特性を理解し、運動の技術（技）の名称や行い方等、段階に応じた技能を身につけているか。 ・スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について理解しているか。

【思考・判断・表現】 ・効果的な練習方法を理解し、実践しているか。 ・各種目で戦術、課題解決方法を理解しているか。

【主体的に取り組む態度】 ・公正、協力、責任などの態度を身につけているか。

- ・健康、安全に留意して自ら率先して楽しみながら運動しようとしているか。

以上の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）などから総合的に判断する。

# ＜ 年間計画 ＞

月	授 業 内 容	
	男 子	女 子
4	<b>【集団行動】</b> ・集合隊形 列の整頓 開列 番号 ・列の増減 方向変換 行進 駆け足 ・ラジオ体操第一	<b>【集団行動】</b> ・集合隊形 列の整頓 開列 番号 ・列の増減 方向変換 行進 駆け足 ・ラジオ体操第一
5	<b>【バドミントン】</b> ・単元の説明 ・グリップとフットワーク	<b>【ハンドボール】</b> ・単元の説明 ・キャッチボールとパス ・シュート練習 ジャブシュート ステップシュート
<b>前 期 中 間 考 査</b>		
6	・クリアの打ち方 ・各種ショットとサービス ・ゲームと審判法 (シングルス・ダブルス)	・オフェンス カットイン・クロス・ブロックプレー ・ディフェンス フットワーク シュートカット・ ゴールキーピング ・ゲームと審判法
<b>前 期 期 末 考 査</b>		
7	<b>【フットサル】</b> ・単元の説明 ・基本技術 リフティング ドリブル キック トラッピング	<b>【ソフトバレー】</b> ・単元の説明 ・パス練習 直上トス オーバーハンドパス アンダーハンドパス
<b>【体育理論】</b> ・体のほぐしの考え方 ・体のほぐしの運動のおこない方 ・運動と体力 ・体力トレーニングの目的		
<b>夏 季 休 業</b>		
8	・トレーニングプログラムの作成 ・目的別にみた体力トレーニングの方法①・② ・運動によるけが ・病気の予防	
9	・シュートとコンビネーション ・ゴールキーピング ・ゲームと審判法	・スパイクブロック ・サブとレシーブ ・チームプレーとローテーション ・ゲームと審判法
10	<b>【バスケットボール】</b> ・単元の説明 ・パス練習 ・ドリブル練習	<b>【ソフトテニス】</b> ・単元の説明 ・ラケットの握り方 ・ラケットを使ったボールゲーム
11	・動きの中でのパス、ドリブル ・シュート ドリブルシュート セットシュート	・基本的な打法 ①グラウンドストローク ②ボレー ③スマッシュ ④サービス
<b>後 期 中 間 考 査</b>		
・ゲームと審判法		・ゲームと審判法 (シングルス・ダブルス)
12	<b>【ソフトバレー】</b> ・単元の説明 ・パス練習 直上トス オーバーハンドパス	<b>【バスケットボール】</b> ・単元の説明 ・シュート ドリブルシュート セットシュート
<b>冬 季 休 業</b>		
1	アンダーハンドパス ・スパイクブロック・サブとレシーブ ・ゲームと審判法	・シュート ドリブルシュート セットシュート ・コンビネーションプレー ・ゲームと審判法
<b>卒 業 考 査</b>		
2		
3		
<b>学 年 末 休 業</b>		

英語科	英語コミュニケーションⅢ	4単位
3学年	特進Gコース	

<授業目標>

1. 入試問題の核となっている長文問題に対応するため、多くの英文を読み読解力と速読力を養成する。
2. 大学入試共通テスト「英語」の半分の点数を占めるリスニングに対応するため、多くの英文を聞きリスニング能力を養成する。
3. 説明文、物語文、伝記、日記、エッセイ等多種多様な英文を読む・聞くことで、英語読解のみに偏らず、国際社会問題等の幅広い知識を身に付ける。
4. 国公立大学2次試験および難関私立大学の問題演習を通して、実践力を養成する。
5. 模試において偏差値60以上(進研模試)・55以上(河合塾模試)実用英語検定試験2級合格を目標とする。

<授業内容>

1. 英語の語順に沿って意味を的確につかむよう、意味のまとまりごとに区切りを入れて読むスラッシュリーディング、段落ごとの大意をつかむパラグラフリーディングなどを取り入れてテキストを読む。文法、文などにも留意しながら読み、文の構造を学ぶ精読と、教材等を利用し、出来るだけ多くの英文を読んで、英語に触れる機会を多くするための多読や繰り返しの音読を行う。
2. 語彙を増やすために副教材を利用して、英単語、熟語に関する小テストを行う。
3. 理解度に合わせて、文法、語法、構文に関する問題演習などを補足的に行う。

<使用教材>

教材名	書名	出版社
教科書	ENRICH LEARNING English Communication III	東京書籍
副教材	共通テスト対策 実力完成 直前演習 2025 英語リーディング	ラーンズ
	大学入学共通テスト 英語 Reach80	美誠社
	共通テスト英語模擬演習 80min. 2024	エミル出版
	共通テスト対策 実力完成 直前演習 2025 英語リスニング	ラーンズ
	大学入学共通テスト 英語 Reach Listening30	美誠社
	共通テストリスニング実践 30min. 2024	エミル出版

<成績評価>

評価の観点			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
英文の内容に関心を持ち、積極的に理解することができる。周囲と積極的に英語で意見交換をすることができる。	本文の内容を、学習事項を用いて英文で再現することができる。内容に関して、感想や意見を伝え合うことができる。	本文の内容についての質問に英語で答えることができる。	文法事項を理解し、適切に使用することができる。意味の区切りを意識し、相手が理解しやすいように音読することができる。

<3年間の履修展開>

1年次:英語コミュニケーションⅠ、論理・表現Ⅰ

↓  
2年次:英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅱ  
↓  
3年次:英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅱ

<探求学習> 随時実施予定

<年間計画>

月	週	学習内容
4	1	Lesson 1 What thinking and study habits can help us succeed?
	2	Lesson 1 What thinking and study habits can help us succeed?
	3	Lesson 2 How can we use AI to improve education?
5	4	Lesson 2 How can we use AI to improve education?
	5	Lesson 3 What do folktales tell us about human values?
	6	Lesson 3 What do folktales tell us about human values?
	7	前期中間考査
6	8	Lesson 4 What items would you place in a time capsule?
	9	Lesson 4 What items would you place in a time capsule?
	10	Lesson 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture?
	11	Lesson 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture?
7	12	Lesson 6 How can art be made accessible to all?
	13	前期期末考査
	14	Lesson 6 How can art be made accessible to all?
8	15	Lesson 7 How can we preserve life below water?
	夏季休業	
9	16	Lesson 7 How can we preserve life below water?
	17	Lesson 8 Is there anything money can't buy?
	18	Lesson 8 Is there anything money can't buy?
	19	大学入学共通テスト対策
10	20	大学入学共通テスト対策
	21	大学入学共通テスト対策
	22	大学入学共通テスト対策
	23	大学入学共通テスト対策
11	24	大学入学共通テスト対策
	25	大学入学共通テスト対策
	26	大学入学共通テスト対策
	27	大学入学共通テスト対策
12	28	後期中間考査
	29	大学入学共通テスト対策
	30	大学入学共通テスト対策
1	31	大学入学共通テスト対策
	32	大学入学共通テスト対策
	冬季休業	
1	33	大学入学共通テスト対策
	34	大学入学共通テスト対策
	35	大学入学共通テスト

英語科	論理・表現Ⅱ	2単位
3学年	特進Gコース	

<授業目標>

1. 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
2. 文法、構文等、英語の構造に対する理解を深め、英語で書く能力を高める。
3. 分詞や関係詞等の後置修飾を積極的に用いるなど、より豊かな表現力を養成する。
4. 副教材の文法・語法問題集を利用し、2年次までに学んだ文法事項を体系的に理解するとともに、応用力を養成する。

<授業内容>

1. テキストのポイントとなる英文法事項を確認し、その英文法を活用した英文を作成する。
2. 2年次までの既習事項の定着を図り、英語の構造に対する理解をさらに深めるため、副教材を利用して英文法、構文等の問題演習を行う。
3. 語彙力を増強し、用法に対する理解を深めるため、適宜語彙や熟語に関する小テストを行う。
4. 会話表現に関する知識を増やすため、副教材等も利用して演習を行う。

<使用教材>

教材名	書名	出版社
教科書	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION II	開隆堂
副教材	英文法・語法 Vintage 3 <sup>rd</sup> Edition	いっずな書店
	ブレイクスルー プラクティカルステージ	美誠社
	Breakthrough Upgraded English Grammar in 36 Lesson	美誠社
	Breakthrough 総合英語	美誠社

<成績評価>

評価の観点			
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・ 理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。</li> <li>・間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。</li> <li>・積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ文法を使って文章を書くことができる。</li> <li>・パラグラフの構成に基づき文章を書くことができる。</li> <li>・例文を英語らしい発音で発話することができる。</li> <li>・紹介するトピックを決め、発表できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選べる。</li> <li>・発音に関する語句や英文を聞き、正しい解答を選べる。</li> <li>・パートナーの言ったことを正しく聞き取れる。</li> <li>・パラグラフの構成を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なトピックの内容を理解することができる。</li> <li>・それぞれのページで学んだ文法を理解している。</li> <li>・学習した文法を理解し、知識として定着している。</li> </ul>

<3年間の履修展開>

1年次:英語コミュニケーションⅠ、論理・表現Ⅰ  
↓  
2年次:英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅱ  
↓  
3年次:英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅱ

<年間計画>

月	週	学習内容
4	1	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第1,2章
	2	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第3章
	3	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第4章
5	4	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第5章
	5	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第6章
	6	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第7章
	7	前期中間考査
6	8	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第8章
	9	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第9章
	10	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第10章
	11	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第11章
7	12	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第12章
	13	前期期末考査
	14	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第13章
8	15	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第14章
	夏季休業	
9	16	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第15章
	17	ブレイクスルー プラクティカルステージ 第16章
	18	Vintage1~2章
	19	Vintage3~4章
10	20	Vintage5~6章
	21	Vintage7~8章
	22	Vintage9~10章
	23	Vintage11~12章
11	24	Vintage13~14章
	25	Vintage15~16章
	26	Vintage17~18章
	27	Vintage19章
12	28	後期中間考査
	29	Vintage イディオム
	30	Vintage 会話表現
1	31	大学入学共通テストリスニング問題
	32	大学入学共通テストリスニング問題
1	冬季休業	
	33	大学入学共通テストリスニング問題
	34	大学入学共通テストリスニング問題
	35	大学入学共通テスト